

1. 地震について

a) 南海地震について

Q. 南海地震は、冬に発生する可能性が高いような気がするが、どうなのか？

A. 科学的な因果関係は証明されていないが、歴史的に12月や2月など冬に多く起きている。

Q. 南海地震と内陸の活断層地震の違いは？

A. 活断層地震は、兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）のような時間の短い激しい縦揺れとされ、南海地震のような海溝型地震は、ゆっくりとした横揺れとなる。また、海で起こるので津波も同時に発生するとされている。

揺れが長い場合は、南海地震と考え、津波に警戒し、津波による浸水が予想される地域の方はすぐに逃げて欲しい。

Q. 地震のときに揺れる方向はわかっているのか？

A. 南海地震の場合、おもな横揺れの方向は北西から南東にかけてゆれることになるが、東南海・南海地震が同時発生というような場合は色々な揺れが組み合わさってくるので、一概にどっちの方向というのはいえないところもあるのであまり気にしないほうがいい。

Q. 南海地震は、どれくらいの深さのところで起こるのか？

A. 南海地震は10～30kmくらいのところで起こるとされている。

Q. 南海地震では前震はあるのか？

A. 宮城県沖地震（H15.7.26）では前震があった。南海地震はどうか分からない。突然やってくるという前提で考えておく方が安全である。

Q. 震度3程度の地震が、年数回起こっていれば南海地震は起こらないのではないか？

A. 九州沖の南海トラフでは、年間数回の地震によりストレスを開放しているが、紀伊半島沖では固着域（アスペリティー）があり、ストレスを開放していないため、南海地震が起こる可能性はなくなる。

b) 予知について

Q. 動物の予知能力の研究について、和歌山県ではどうか？

A. 宏観現象と呼ばれるものであるが、現在和歌山県では取り入れていない。理由は、地震専門家の間では、まだ信頼性が低いとされているため。現在の予測体制は、地殻変動のデータによるところが大きい。

Q . 地震の前兆はあるのか？

A . 井戸の水位の変化等があるといわれているが、現在は研究段階。

Q . 東南海・南海地震の予知は？

A . 東南海・南海地震は、その仕組みを解明するのがこれからで、観測態勢が強化されている。東海地震と比べて観測データが不足しており、今後データが蓄積されれば、予知の可能性もでてくる。

c) 中央構造線について

Q . 和歌山市付近で微小地震が多く発生しているが、南海地震との関係は？

A . 地震というのは、大きく分けて南海地震のような海底で起こる地震と活断層で起こる地震があるが、和歌山市付近にも中央構造線と呼ばれる活断層があり、それが原因でおこっている。南海地震が起こる前50年、起こってから後10年は活断層が活発になるといわれており、兵庫県南部地震がその活動期のスタートと言われており、鳥取県西部地震、芸予地震と反時計回りで起こっている。

Q . 中央構造線の影響は？

A . 南海地震に比べ、発生間隔は長い。ただし、南海地震等のプレート型地震と連動して、前後に発生する可能性も地震学者から指摘されており、油断できない。

d) その他

Q . マグニチュードと震度の違いについて

A . マグニチュードは地震そのものもっているエネルギーの大きさ(規模)を表す単位であり、震度は各地の揺れ、各地に与える影響の大きさである。

Q . マグニチュードが1違えば被害はどれだけ変わるのか？

A . 一概には言えないが、一般的にマグニチュードが1大きくなれば、地震エネルギーは約32倍になる。被害に直接関わりがあるのは震度である。

Q . 活断層はどこにあるのか？

A . 地震は、岩盤の中が破壊されて、その断層面がずれる運動です。こうして出来た断層のうち、何時また動くかも知れないものがたくさんあります。こうした断層を「活断層」と呼び、日本には約2,000の活断層があると言われていています。ちなみに和歌山県内で確認されている活断層は、和歌山市付近に位置する中央構造線がある。